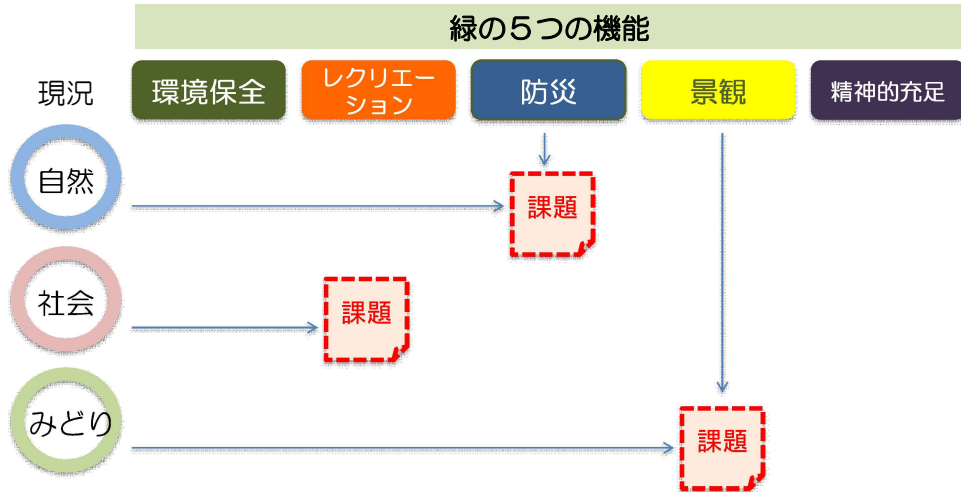


## 2 みどりの現況と課題

### 2-1) 現況と課題

旭川市のみどりにかかる現況と課題について、自然、社会、みどりの3つの面と「みどりの持つ5つ機能」から整理すると次のとおりとなります。

#### ■ 現況と課題の整理



#### ① 「自然」からみた課題の整理

旭川市の「自然」では、寒冷積雪の気候や多様な自然、河川や田園などのみどりの骨格、河川が多いなどの現況に対し、これらの良さが失われることへの懸念や、災害など安全面での課題がみられます。また近年、気候変動の影響により、気温の上昇や降水パターンの変化がみられ、それに伴う新たな災害リスクの増大などの課題が生じています。

#### ■ 「自然」からみた課題

	現況	環境保全面の課題	レクリエーション面の課題	防災面の課題	景観面の課題	精神的充足面の課題
自然	夏暑く冬寒い、四季の変化が明瞭、寒冷積雪の気候風土	温暖化による気候変動の顕在化	冬期の過ごし方への工夫の余地がある	集中豪雨、集中的な降雪などの自然災害が拡大	季節変化の魅力づけが不十分	
	亜高山帯～低山地帯の多様な自然植生	多様性の減少の危惧	多様性の享受が限定的		旭川らしい自然景観の劣化が懸念	ふるさとの風景として保全方策が弱い
	街、河川、田園、山地丘陵の緑を骨格とする構成	骨格となる緑地資源の減少懸念		斜面崩壊や土砂流出などの災害発生の危険性	豊かな緑に囲まれた景観特性の担保性が低い	
	大雪山系を源とする多くの河川が市内に貫入	河川環境、生物移動空間の劣化懸念	自然に親しむレクリエーション活動の場としての工夫の余地がある	避難経路としての接続性が不十分	自然豊かな旭川を象徴する景観資源としての活用余地がある	多様な自然とふれあう機会が限定的
	貴重な鳥類、希少植物など生息生育環境を有する	動植物の生息生育環境の喪失・攪乱懸念		ヒグマやエゾシカなど野生生物による被害への懸念		
<凡例>	今回の重点課題					

## ② 「社会」からみた課題の整理

旭川市の「社会」では、この10年で大きな変化がみられました。具体的には、

- ・人口減少と少子高齢化の更なる進展
- ・中心市街地の活力低下、開発圧力の低下
- ・財源予算の縮減
- ・町内会加入率低下などコミュニティ面での衰退
- ・市民活動の多様化や参加者の固定化
- ・健康寿命の延伸と健康格差の縮小
- ・ICT化、DXの進展

などが挙げられます。こうした側面から公園の利用減少やニーズの変化、施設の老朽化、バリアフリー化などの高齢化対策が求められているほか、みどりの市民活動の展開への期待もみられます。

### ■ 「社会」面からみた課題

	現況	環境保全面の課題	レクリエーション面の課題	防災面の課題	景観面の課題	精神的充足面の課題
社 会	人口減少が進展（10年後には27万規模へ）		中核都市に対する人口流出抑制への期待拡大	安全安心への希求増大		高齢者の憩いへの希求の増加、公園遊具の利用低下
	少子高齢化が進展（老年人口は40%超え、年少人口は10%未満へ）	自然環境を享受するニーズが多様化	スポーツを取り巻く環境の変化、子育てなど教育環境充実化への要請	避難経路のバリアフリー化が不十分		
	中心市街地の空洞化が進展		都心のにぎわいや快適性の低下、コロナ禍後の産業の振興		都心部の景観的なシンボルとなる緑が弱い	都心の潤い魅力の低下
	開発圧力の低下、市街地拡大の抑制	既成市街地内の樹林地が希少化	規模の小さい公園の増大、公園施設のマンネリ化			
	財源、予算の縮減傾向	保全施策にかかる予算の確保が困難	公園施設の老朽化、維持管理負担の増大			
	町内会加入率の低下		地域コミュニティの衰退、地域清掃や公園維持管理に担い手不足	要配慮者への防災支援が不十分		地域コミュニティの交流活動が停滞気味
	市民活動や協働への期待感	環境に関わる市民活動やNPO団体等の活動数が頭打ちで協働体制が不十分		防災面で地域協働システムが不十分		市民の楽しみ増進のための普及啓発が不十分
<凡例>	今回の重点課題					

## ③ 「みどり」からみた課題の整理

旭川市の「みどり」でも、この10年で変化が見られました。具体的には、

- ・公園施設の老朽化の進行による魅力の低下した公園の増加
- ・狭小の公園・児童遊園の利用率低下
- ・公園が未整備の地区の未解消、公共施設の緑化の立ち遅れ
- ・河川を軸とする生物多様性への対処
- ・田園を中心とする農や食への関心の高まり
- ・市民協働の多様化
- ・市民評価は上昇傾向であるものの、施設評価がやや低い

などの状況から、新たな課題への対応が求められています。特に公園施設の老朽化やそれによる魅力の低下した公園の増加、狭小な児童遊園への対応、田園文化的なニーズへの対応、市民協働の連携、市民の公園施設の評価や満足度への対応などが求められています。

■ 「みどり」からみた課題

現況		環境保全面の課題	レクリエーション面の課題	防災面の課題	景観面の課題	精神的充足面の課題					
みどり	全体	河川、丘陵地、田園の緑に依存した構造を有している					街の緑が弱く、河川、丘陵地、田園の保全と活用が不十分				
	街の緑	一人当たりの都市公園面積は着実に増加		維持管理負担の増大、施設内容が重複、量より質への希求、画一的な施設整備の限界	防犯防災機能の充実が一部、不十分		樹木の老木化	バリアフリー化の対応が立ち遅れ			
		20年以上経過した公園が9割、狭小な公園(1000m2未満)が1/4を占める									
		狭小な多数の児童遊園がある(285箇所)		規模が小さく同様な遊具で機能重複	遊具の安全管理負担が増加						
		公園緑地の整備が未充足の地区がある	整備における生物多様性の視点が未整備	住区基幹公園や都市基幹公園の適正配置が一部で不十分	広域、一次避難地の機能強化が不十分			画一的な整備から地域ニーズへの対応へ			
		街路樹の推移は横ばい	生態回廊的な対応が限定的	危険木の発生、維持管理負担の増大	避難路のネットワーク形成が不十分	強剪定による景観劣化		補植更新時に市民理解が得られないケースが増加			
		小中学校、行政施設、幼稚園などの公共施設の緑化が立ち遅れている		施設と一体となった取組みや先導的役割が限定的				緑を介した情報、環境教育の充実が弱い			
		商業地や民有地は緑化状況は全体的に低い	民有地緑化修景の誘導取組みが有効に展開されていない								
		緑豊かな印象は、丘陵地周辺など高いが市内全体でみると希薄	効果的な緑化推進や保全が不十分								
		公園緑地の整備は、古くからの市街地が高密度で公園緑地などが少ない	地区公園クラスの生態的拠点づくりが不十分	住区基幹公園や都市基幹公園の適正配置が一部で未整備	身近な避難地の確保が一部で不十分	緑地などの整備による都市景観の向上が不十分	身近な潤い空間を拡充に欠ける				
		河川	市街地に4つ河川が流れる川の街、河川に接続する公園が多い	河川植生の多様性確保、広域ネットワークづくりが断片的	河川空間の多様なレクリエーション活用、ネットワークが不十分	防災面の避難経路、拠点性が弱い	母なる河川景観の保全、創造が不十分				
	田園の緑	豊かな農地の減少、後継者不足	農地の減少と耕作放棄地の発生	ガーテニングや市民農園、地産地消などの動向に回答が限定的		耕作放棄地や不法投棄による景観劣化					
		食への安全志向、市民農園等の農の生活文化の高まり					生きがいづくり、交流促進による愛着もてるまちづくりへの仕掛けが限定的				
	全体	市民協働の定着、多様な市民活動の展開	自然環境保全の活性化、担い手育成の遅れ		防災協働の強化が立ち遅れ	都市景観の向上に向けた市民協働機会が限定的					
	市民評価は自然環境に対して高く、公園、遊び場に対してやや低い	市民評価は横ばいか低下傾向	「悪い」が減少傾向も「良い」が横ばいと評価が低い		市民の満足度向上に向けた対応が未確立						
<凡例>		今回の重点課題									

■現況と課題一覧

		現況	環境保全面の課題	レクリエーション面の課題	防災面の課題	景観面の課題	精神的充足面の課題	
自然	自然	夏暑く冬寒い、四季の変化が明瞭、寒冷積雪の気候風土	温暖化による気候変動の顕在化	冬期の過ごし方への工夫の余地がある	集中豪雨、集中的な降雪などの自然災害が拡大	季節変化の魅力づけが不十分		
		亜高山帯～低山地帯の多様な自然植生	多様性の減少の危機	多様性の享受が限定的		旭川らしい自然景観の劣化が懸念	ふるさとの風景として保全方策が弱い	
		街、河川、田圃、山地丘陵の緑を骨格とする構成	骨格となる緑地資源の減少懸念		斜面崩壊や土砂流出などの災害発生危険性	豊かな緑に囲まれた景観特性の担保性が低い		
		大雪山系を源とする多くの河川が市内に貫入	河川環境、生物移動空間の劣化懸念	自然に親しむレクリエーション活動の場としての工夫の余地がある	避難経路としての接続性が不十分	自然豊かな旭川を象徴する景観資源としての活用余地がある	多様な自然とふれあう機会が限定的	
		貴重な鳥類、希少植物など生態生育環境を有する	動植物の生態生育環境の喪失・攪乱懸念		ヒグマやエゾシカなど野生生物による被害への懸念			
社会	社会	人口減少が進展（10年後には28万規模へ）		中核都市に対する人口流出抑制への期待拡大	安全安心への希求増大		高齢者の憩いへの希求の増加、公園遊具の利用低下	
		少子高齢化が進展（老年人口は40%超え、年少人口は10%未満へ）	自然環境を享受するニーズが多様化	スポーツを取り巻く環境の変化、子育てなど教育環境充実化への要請	避難経路のバリアフリー化が不十分			
		中心市街地の空洞化が進展		都心のにぎわいや快適性の低下、コロナ後の産業の振興		都心部の景観的なシンボルとなる緑が弱い	都心の潤い魅力の低下	
		開発圧力の低下、市街地拡大の抑制	既成市街地内の樹林地が希少化	規模の小さい公園の増大、公園施設のマンネリ化				
		財源、予算の縮減傾向	保全施策にける予算の確保が困難	公園施設の老朽化、維持管理負担の増大				
		町内会加入率の低下		地域コミュニティの衰退、地域清掃や公園維持管理に担い手不足	要配慮者への防災支援が不十分		地域コミュニティの交流活動が停滞気味	
		市民活動や協働への期待感	環境に関わる市民活動やNPO団体等の活動数が頭打ちで協働体制が不十分		防災面で地域協働システムが不十分		市民の楽しみ増進のための普及啓発が不十分	
みどり	全体	河川、丘陵地、田圃の緑に依存した構造を有している	街の緑が弱く、河川、丘陵地、田圃の保全と活用が不十分					
		一人当たりの都市公園面積は着実に増加		維持管理負担の増大、施設内容が重複、量より質への希求、画一的な施設整備の限界	防犯防災機能の充実が一部、不十分	樹木の老木化	バリアフリー化の対応が立ち遅れ	
		20年以上経過した公園が9割、狭小な公園（1000m <sup>2</sup> 未満）が1/4を占める		規模が小さく同様な遊具で機能重複	遊具の安全管理負担が増加			
		狭小な多数の児童遊園がある（285箇所）		住区基幹公園や都市基幹公園の適正配置が一部で不十分	広域、一次避難地の機能強化が不十分		画一的な整備から地域ニーズへの対応へ	
		公園緑地の整備が未充足の地区がある	整備における生物多様性の視点が未整備	危険木の発生、維持管理負担の増大	避難路のネットワーク形成が不十分	強剪定による景観劣化	補植更新時に市民理解が得られないケースが増加	
		街路樹の推移は横ばい	生態回廊的な対応が限定的		施設と一体となった取組みや先導的役割が限定的		緑を介した情操、環境教育の充実が弱い	
		小中学校、行政施設、幼稚園などの公共公益施設の緑化が立ち遅れている						
		商業地や民有地は緑化状況は全体的に低い		民有地緑化修景の誘導取組みが有効に展開されていない				
		緑豊かな印象は、丘陵地周辺など高いが市内全体でみると希薄		効果的な緑化推進や保全が不十分				
		公園緑地の整備は、古くからの市街地が高密度で公園緑地などが少ない	地区公園クラスの生態的拠点づくりが不十分	住区基幹公園や都市基幹公園の適正配置が一部で未整備	身近な避難地の確保が一部で不十分	緑地などの整備による都市景観の向上が不十分	身近な潤い空間を拡充に欠ける	
		市街地に4つ河川が流れる川の街、河川に接続する公園が多い	河川植生の多様性確保、広域ネットワークづくりが断片的	河川空間の多様なレクリエーション活用、ネットワークが不十分	防災面の避難経路、拠点性が弱い	母なる河川景観の保全、創造が不十分		
		豊かな農地の減少、後継者不足	農地の減少と耕作放棄地の発生	ガーデニングや市民農園、地産地消などの動向に回答が限定的		耕作放棄地や不法投棄による景観劣化		
		食への安全志向、市民農園等の農の生活文化の高まり					生きがいつくり、交流促進による愛着のもてるまちづくりへの仕掛けが限定的	
市民協働の定着、多様な市民活動の展開	自然環境保全の活性化、担い手育成の遅れ		防災協働の強化が立ち遅れ	都市景観の向上に向けた市民協働機会が限定的				
市民評価は自然環境に対して高く、公園、遊び場に対してやや低い	市民評価は横ばい/低下傾向	「悪い」が減少傾向も「良い」が横ばいと評価が低い		市民の満足度向上に向けた対応が未確立				
<凡例>	今回の重点課題							